

「SOGI」とは多様な性的指向や性自認。私たちは毎月の定例会で、院内でのSOGI支援推進のために色々な議論を行っています。

答えが出ないことも多いですが  
私たちがどんな検討を  
行っているのかを定期的に  
ご報告いたします。

## 今回の議題

### 少しでも安心して受診頂くための 院内の取り組み

SOGI支援チームは、本学の「高知大学におけるSOGIの多様性に関する基本方針（令和4年1月27日制定）」に準拠し、当院内で以下の目的を達成するために活動しています。

研修、提言などの活動を通じて  
附属病院職員のSOGIへの  
理解を深めること

多様な性の在り方を持つ人々が  
苦痛なく安心して受診、治療を  
行うことができる院内環境  
づくりに資すること

昨年6月の  
チーム発足以降  
SOGIの観点から  
業務改善をしてきた  
取り組みの一部を  
ご紹介いたします。



性的マイノリティー、特にトランスジェンダーの方にとって、男女二つの性別で患者対応を行なう医療機関って、受診すること自体に不安を感じるという話を聞きます。



例えば、戸籍上は男性だけど、性自認が女性の方の場合など、男女どちらの病室に入院になるのか、お風呂やシャワーはどうなるのか。そもそもカルテには性別はどう書かれるのか。自分は男女どちらとして扱われるのか。自分の病気のこと以上に色々心配されるようです。



医療機関によっては、不要な性別の表記をとりやめたり、ご本人が望む通称での対応を行っていると聞きます。



とはいえ、医療を安全に提供する上で、生物学上の男女の区別が必要になる場合もあります。血液検査の正常値は性別で異なっています。また、疾患も男性だけがかかるもの、女性だけがかかるものがあります。性別記載をただ無くすということではなく、個人への配慮と、医療の安全性とのバランスを考えていく必要があります。



色々取り組むべきことが多そうです。当院の場合は、性別情報が電子カルテや診療請求のシステムにも連動していますから、簡単には変更できません。不安がある方には名乗り出してもらって個別対応するしかないのでは。



申し出しやすい窓口の設置も大事ですが、名乗りたくない人もいるでしょう。まずは、今できることから始めませんか。性別が必要ない書類から性別の表記をなくす、性別で分ける必要がない設備などは共通で使えるようにするとか。



院内でどんな書類に性別が記載されているのか。そこからまずはチェックしていきましょうか。

